

社説

デジカメやビデオで撮った映像をインターネットで送る。そうした情報発信を誰でもやる時代になった。それを個人の趣味にとどめず、高齢者も若者も子供も、一緒にわいわい楽しく作って発信する。そんな「わいわい共同

体」を日本中に広げたい。昔の村落共同体と違って、「わいわい共同体」は誰でも参加できる。どこにでも発信し、ネットワークでつながる。そんな開放性を力にしたい。うねりはすでに起きています。

火付け役として各地を飛び回る熊本県元民放ディレクター岸本晃さん(54)は、地域が全国ネットワークでつながる時が来たと感じている。みんなで作ると何が生まれるか。まず、地域内の連帯感だ。地域づくりに必要な企画力、取材力、広報力なども鍛えられる。番組の裏側を考えながらテレビを見る習慣も身につく。

「よそ者」については、もう少し深く考えてみたい。地域の魅力に、自分たちは気づきにくい。「よそ者」の目によって発見されることが多いのではないかと。実例をあげよう。北海道テレビは97年、「北海道アワー」という番組を東アジア向けの衛星放送で流し始めた。

4月からのよよ本番。緊張感を持って取り組んでいきたい。新たな目標達成計画を閣議決定した28日、福田首相は、そう関係者に指示した。

加されたが、はかばかしい効果はなかった。今回も従来の延長線上にとどまり、国内排出量取引制度や環境税の導入など賛否が分かれている強力な施策は、先送りされた。24時間営業のコンビニエンスストアの利用など深夜に及ぶようになった生活様式の見直しや、夏の間は時刻を早めるサマータイムの導入にも踏み込まなかった。政府は今後、対策が効果を上げていくかどうか、毎年6月と年末の2回、進み具合を点検し、必要ならは計画を見直す。09年度には、12年度までの約束期間全体の見直しを示して、「10年度以降に速や

少年高齢化やグローバル化の時代に日本を希望社会に変えるには、地域へ主権を移すしかない。このシリーズはそんな方向で未来像を描いてきた。各論の最後に、いかに地域を元気にするかを考えたい。大きな力になるのが、情報化の潮流だ。

「よそ者」の視点を取り込み、地域を元気に

「よそ者」の視点を取り込み、地域を元気に

別の地域とつながれば、可能性はもっと広がる。似た悩みを抱えているとわかり、解決策を出し合う。雑草の映像を見て草刈りに行く。若者がいなくて困ると聞いて移住する。そんな農村再生の道も開けていく。

すると、台湾で人が爆発した。雪、牧場、温泉、クマの親子……。素朴な映像が、雪も広大な自然にあがれる南島の人々の心をとらえたのだ。

かに実効性のある追加対策を実施する」とうたった。大幅な排出削減につながる決手を欠くなかで、注目されているのが国内排出量取引制度だ。世界各地の「炭素市場」が提携し始めた動きを受け、日本でも導入論議が活発になってきた。制度導入は次期総組みが始まる13年以降の話しとする経産省と、約束期間なかばからの実施を目指す環境省との間に隔たりはあるが、今後の成り行き次第では、対策の前面に躍り出る可能性もある。

希望社会への提言

23

「わいわい共同体」をつくらう

・地域文化を発信して「連帯型社会」をつくる
・「よそ者」の視点を取り込み、地域を元気に

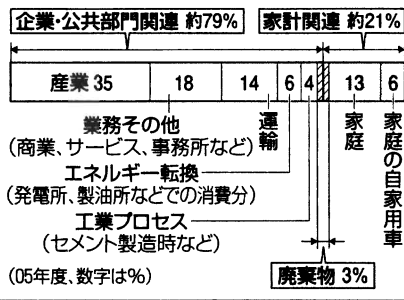
素顔を映す番組を作り、インターネットやケーブルテレビで流す。そんな試み始めた地域がざっと20はある。地方だけではない。東京都杉並区の住民ディレクターたちは「都市の村おこし」をテーマに番組を作っている。地元農家を訪ねる「つなげていききたい杉並の農業」、大都市ならではの「私の好きなコンクリートの川」……。福岡県東峰村の住民ディレクターたちとテレビ会議もする。

決め手はやはり「人」だ。地域を元気にする「よそ者、若者、ばか者」という言い方がある。情報発信でその三者の協力が欠かせない。岸本さんのような「よそ者」が制作や発信のノウハウを持ち込む。「若者」が加わって活気づかせ、「ばか者」扱いはされるほどの情熱や行動力がある人たちが推し進めていく。

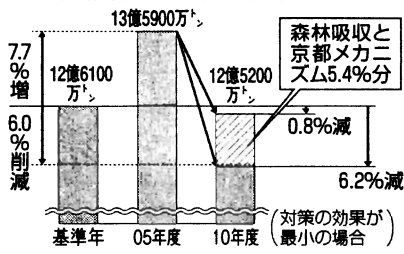
映像による魅力の発見が観光に結びつけば、関連産業が潤い、外の目を意識した地域づくりも進む。しかし、別の効果にも目を向けたい。韓国の徐淵美・高麗大名誉教授は最近、「日本文化芸術の現場」という本を出した。日本各地を歩いて文化の多様さに驚き、韓国も参考にしたい方がいいると思うようになったからだ。

3年後には地上波テレビもすべてデジタルへ移る。その特徴を生かして地域文化の発信を競い合う。そんな時代にしたい。チャンネルを増やせるのがデジタルの良さだから、「わいわい共同体」に電波の一部を開放して、海外へも発信してほしい。

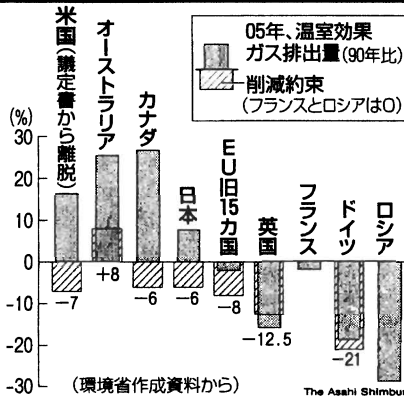
国内でのCO2の部門別排出量の割合



政府の改定目標達成計画が描く見通し



各国の削減約束達成状況



京都議

して平均12分短縮を目指す。日本野球機構(コミッショナー事務局は「ナイターの照明や選手の移動などで多くのエネルギーを消費している。ファンを意識啓発にもつなげた」。29日までの29試合は平

- 身近な努力で減らせ
- あたりのCO2排出
- 夏の冷房設定温度を
- 28℃に……………
- 冬の暖房設定温度を
- 20℃に……………
- 白熱電球を電球形蛍
- 管に交換……………
- 通勤や買い物にバ
- ス、自転車を使う…
- 買い物を壁から適切
- に、省包装の野菜を
- ……………
- 水筒を持ち歩いてベ
- ットルの使用を減ら
- す……………
- 主電源をこまめに切
- 断……………
- 冷蔵庫を壁から適切
- に設置……………
- 冷蔵庫にもものを詰
- め……………
- ぎない……………
- (「チーム・マイナス
- 25」のウェブサイトから

日本と世界





会員らの制作番組などが上映された「住民ダイレクターフォーラム」＝豊岡市民プラザ

住民の目線で 情報番組制作

来月開局 ネットTVで発信

豊岡で上映会

住民の目線で情報を発信する「但馬を映像で発信する会」（木村尚子代表）のネットテレビ開局を記念した初のフォーラムが十八日、JR豊岡駅前前の豊岡市民プラザで開かれ公開収録された。フ

活動が続けている。フォーラムでは会員ら

の制作番組を上映。川嶋明子さんと牧野裕美子さんは、但馬の住民にとって距離が近く、世代を超えて楽しめるスキーの利点を紹介。「今季は暖冬で雪不足といわれるが、滑走可能なスキー場もあり、比較的混雑していないなどの利点もある。プラス志向で生活を楽しまたい」と話した。

また、吉岡敏幸さんは「鮭かえる晩秋の奥山川」と題して発表。フットワーク軽くサケの遡上シーンを撮る吉岡さんの様子を別の会員が撮影したシーンも紹介された。

ホームページアドレス
http://www.dmi.jp/
net/id/

（幾野慶子）

出石

まちの発展へ「住民ディレクター」

地域情報番組作り開始

生活者の視点で情報発信を目指す「但馬を映像で発信する会」（木村尚子代表）が豊岡市出石町内で住民ディレクター活動による初めての地域情報番組作りを始めた。

二〇〇三年但馬地域ビジョン委員会のもと活動を開始し、〇五年に同会を設立。住民にとって大切なものを伝える「住民ディレクター」に着眼し、養成講座などを開いてきた。

十八、十九日の二日間の実践講座には、同会のメンバーや一般の住民ら約二十人が参加。ビデオカメラを手に町内を歩き地元をよく知る高齢者や観光客に話を聞いたり、

観光地ではないが面白い言い伝えがある木や井戸などを取材して回った。

二月まで、但馬各地で毎月二日間ずつ実践講座の中で取材を続け、編集した番組は、インターネットなどで発信する。



ビデオカメラを手に出石城跡で取材する参加者たち＝豊岡市出石町

りになる。みんなが楽しい」と話している。

みながら講座を続けた

(幾野慶子)

住民の視点で取材、但馬地方の映像をインターネットで配信している「但馬を映像で発信する会」（木村尚子代表）はインターネットテレビ「但馬テレビ」の開始を前に18日、豊岡市民プラザで公開番組の収録を行った。市民ら約50人が参加し、但馬の自然や人々を撮影した映像に見入った。同会は昨年10月から4回、ビデオカメラで地域を取材する「住民ディレクター」の養成講座を開き、番組作りや取材の手法を受講者に指導した。この日は受講者9人が講座の締めくくりとして、撮影し

住民の視点で映像配信 「但馬テレビ」公開収録

た映像を披露。同市出石町の奥山川を遡上するサケや、同市日高町の奥神鍋のスキ場の様子を収めた映像などを上映した。

ハチ高原で林間学校に来た小学生の様子などを紹介した養父市奈良尾、民宿経営、藤原文男さん(竹)は「但馬の自然の美しさをインターネットを通じて全国の人に伝えたい」と意気込んでいた。

「但馬テレビ」は3月3日、公開番組収録の様子を映像の配信を開始する。アドレスは (<http://www.dmtv.jp/>)。



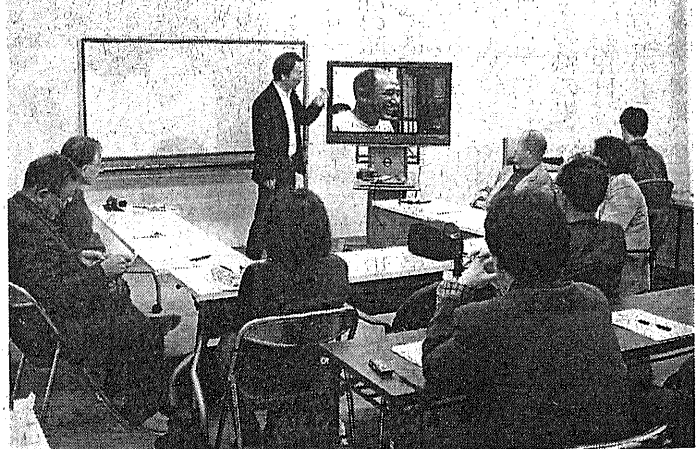
撮影した映像を披露する住民ディレクター（豊岡市民プラザで）

店の出し巻き(同1000個を1人1個プレゼントする。)



「一方になった」

約1名



住民ディレクター活動について話をする岸本さん(西町1丁目で)

京都住民ディレクターチームわんど

住民がネットテレビで情報発信

府内初の「住民ディレクター」実践講座開講

地域住民がビデオカメラを手に地域の話題を取材し、編集した番組をインターネットテレビなどで情報発信する「住民ディレクター」の実践講座が17日から綾部市内でスタートした。住民ディレクター活動の創始者でプリズム代表取締役の岸本晃さんを講師に招いた講座では、「綾部」の番組を制作し、来年3月に衛星放送(スカパー194ch「南の國から」)で放送される予定。

元民放テレビ局社員の岸本さんが熊本県内で始めた住民ディレクター活動は地域の活性化につながり、全国的に広がりをみせている。昨年度にこの活動が府北部で紹介されたのをきっかけに、府内でも活動が普及させようとする今年7月、有志らが京都住民ディレクターチーム「わんど」(長岡治明代表、15人)を設立。府内で初めてとなる講座を企画した。

西町1丁目のI・Tビル内の「いいプラザ」で行われた講座初日には、10人余りが参加。綾部市内からの参加者の中には7年前から地域の映像を撮り続けている人もいて、「自分の趣味だけで映像を残しておくのはもったいない。公開できる場がほしいし、対話しながら撮影する方法を学びたい」と受講の動機を話していた。

綾部市が総務大臣表彰

60周年記念式典で

東京都内で20日に開かれた地方自治法施行60周年記念式典で、自らの創意工夫で優れた施策を実施し、地方自治の充実発展に寄与した市町村として綾部市が総務大臣表彰を受けた。

和プロジェクトを通じて国際交流や平和活動を推進▽NPOと連携した農村都市交流や「水源の里」条例の制定による地域振興▽工業団地や桜が丘団地の整備などによって企業立地や定住を促進するの3点が評価された。

本格的な冬の到来に備え

除雪作業の出陣式

本格的な冬の到来を前に国土交通省福知山河川国道事務所(佐古康廣所長)は20日、味方町の綾部国道維持出張所で管内除雪作業の出陣式を行った。同事務所の雪害対策等に当たる。

20日から来年3月25日まで、除雪トラックや除雪グレーダー、凍結防止剤散布車、小型除雪機など39台の車両で対象区間の安全な道路交通の確保に当たる。



除雪車両の点検をする関係者ら(味方町で)



第4回総会に出席した会員ら(京都市内で) =市提供

岸本さんは熊本県山江村の住民らが制作した番組などを紹介しながら、住民ディレクター活動について解説。「今回の講座では、山江村の人に綾部のことが伝わる番組を作ってほしい」と呼びかけた。

講座は来年2月まで。「わんど」では関心のある人の参加を歓迎している。問い合わせは「わんど」事務局(090・8528・7751)へ。

◎市社協への寄付 高津町の成田幸子さんが5万円

ホテル綾部ニュース No.280
クリスマスケーキ ご予約承り中
★ガトー・オ・フレーズ「ノエル」
新鮮な苺と生クリームをたっぷり使ったケーキ
(12cm) ¥1,800 (15cm) ¥2,500
★ブッシュ・ド・ノエル
オレンジとホワイトチョコのムースを
薪の形に仕立てました ¥2,500
お電話でもOK 23日か24日にお渡し

を社会福祉事業に ◎市への寄付 寺町の前



3LDK
専有面積(65.63㎡) **2,100万円台**～
敷地内駐車場100%確保 月々500円～

資料請求
プレゼント
実施中!!

TOP 経済 スポーツ 社寺・観光 教育・大学 お買い物 京菓子小町 紅葉 時代祭 京都迎賓館 京都新聞トマト倶楽部

HOME >> 最新ニュース一覧 >> 【詳細】

Kyoto Shimbun 2007年11月18日(日)

地域力向上へテーマ決定 綾部 住民ディレクター講座



参加者と一緒に撮影テーマについて話し合う講師の岸本さん(左)＝綾部市西町

地域住民がビデオカメラで情報発信する「住民ディレクター」の
実践講座が17、18の両日、京都府綾部市西町の「いいプラザ」
で開かれた。地域力向上につながる番組づくりを話し合った後、
撮影のテーマを決めた。

番組づくりを通して、地域住民が企画などのノウハウを学び、そ
れを地域づくりにも役立てるのが目的。府北部の住民らでつくる
ディレクターチーム「わんど」などが主催し、住民ディレクターを提
唱した熊本県益城町の岸本晃さん(54)を講師に2月まで計8回
開催する。

初日の17日は15人が参加し、番組制作の趣旨について説明を受けた後、綾部を紹介する番組を作ること
を決めた。18日は、7人が単独または合同での撮影テーマを決定。綾部市小畑町の村上勝一さん(70)は
撮影対象との対話を重視した作品を目指し、地元山林の散策路整備を取り上げることにした。

番組は来年3月、放映される予定。

←ひとつもどる

気になるニュースをメールで配信(無料)

PR ■不妊治療の向こう側 ■一夫婦で歩む希望への道ー ▼不妊の疑問をわかりやすくお伝えします
PR しがぎんSカードローン<サツキャッシュ>発売中!

最新ニュース

- 南山城村元職員を公金横領で逮捕 容疑で木津署 (00:51)
- 音楽と朗読で視覚障害語る 宇治でコンサート (00:49)
- 来年度から氏名、団体名公表へ 京都市幹部職員の再就職先 (00:17)
- 子育て支援策充実へ 京都市 08年度中に開始 (00:15)
- 対策マニュアル案提言 四万十川事故で甲賀市の検討委報告 (00:07)
- 制服、かっこよく着こなして 西城陽中で「服育」の授業 (23:58)
- 国体Vの重み表彰式で実感 京都チーム (23:41)
- 最先端ロボ、京の高校生に紹介 大日本スクリーン (23:39)
- 460年ぶり鐘新調へ 誓願寺が火入れ式 (23:20)
- 網吉の羽織で豪華袈裟 全国初 八幡の寺で発見 (23:15)

PR ◎京都インプラント矯正センター ♪体験者座談会♪『話したい、聞いてほしい、もっと知ってほしい!』

PR < 55歳。がん世代のPET-CTがん検診・体験記! > 武田病院画像診断センター・JR京都駅徒歩3分

PR ■不妊治療の向こう側 ■一夫婦で歩む希望への道ー ▼不妊の疑問をわかりやすくお伝えします

カテゴリ別

政治・社会 / 経済・IT / 教育・大学・環境 / 観光・社寺・街の話 / スポーツ・芸能

最新記事一覧 / 主要記事一覧 / 記事バックナンバー・サイト内検索



京都御所西プロジェクト

友の会 会員募集中

京都新聞購読申込み
新聞広告案内
web広告案内
記事有料提供



MISSION DR サーマファームクリームを
42,000名様にプレゼント

採用・募集

新聞記事校閲アルバイト募集
京都新聞学生アルバイト募集

キャンペーン

京都市のバスポート2007
京都の病院

特集「健康生活のスズメ」 New!
不妊治療のむこう側
一夫婦で歩む希望への道ー New!
はぐくもう! 未来の京都の主役たち
京都検定 問題と解答
きょうと文化発信 ソフィア
おこしやすーおもしろ宣言
HAPPY NEWS 2007 募集中心
京都滋賀観光宝さがし百選

社説・コラム・ニュース詳報

社説
凡語
取材ノートから
京都新聞号外(PDF版)
特集アーカイブ政治・社
会



夏の終わり

水源の里シンポ
団塊の女性たち
農の水脈
郵政民営化の現場から
京都市路上禁煙条例
成熟への道
虹色ターミナル
京都市新景観政策
彦根築城400年祭
嘉田滋賀県政
栗東 新駅を巡って他...
わたしの京土産
キャラつと@Happy

生活情報

今日の運勢
今日の催し
今週のイベント
交通取り締まり
携帯カメラでバシャッP〜!
市民版プラス 投稿フォーム

*杉並(東)にも住民ディレクター

「住民ディレクター」活動
といえは、熊本「プリズム」
によるケースが代表的。た
が、実は東京都杉並区でも同
しく「住民ディレクター」を
名乗る人々による活動が、こ
こにきて本格化し始めてい
る。

発端は一昨年の9月、区内
の有志が前記の「プリズム」
代表者の岸本晃さん(元熊本

「住民ディレクター」の構造改革

県民テレビのディレクター)
を招いて開催した「子ども
ビデオ制作講座」だったとか。
これをきっかけに、子供に
限らず大人も含めた「社会教
育」のツールとして「住民デ
イレクター」活動を地域に導
入しようとの機運が高まっ
た。昨年9月には杉並区の教
育委員会が主催する形で「ホ
ームビデオを活用した地域づ

くり講座」や「体験講座」も
行われた。

特に後者では説明もそこそ
こに、参加者たちにさっそ
こカメラを持って街中へと取材
に出てもらい、それぞれ5分
間で「杉並区の魅力紹介」番

組を制作してもらった。

何とも展開の早いことだ
が、熊本流「住民ディレクタ

ー」における技術指導は「カ
メラはボタンを押せば写る」
のみ。後は「一発撮り」だけ

でNGによる撮り直しもなし
が原則。岸本さんも「まずは

知り合いどうしが気楽におし
ゃべりして、それを誰かに聞
いてもいい」といったぐらいの

熊本「プリズム」代表の岸本晃さん
を招いて行った「車座トーク」



感じから始めましょう」とア
ドバイスしている。

ともあれ、ここから体験講
座参加者たちを中心とした

「杉並住民ディレクター」活
動が動き出すこととなった。
2月25日には再び岸本さん
を招いて、杉並区の荻窪地域
区民センター内の1室を会場
に「車座トーク」方式で「住

魅力や問題点を再認識

民ディレクター」活動の可能
性を語り合うイベントが開催
された。ここでは愛知県常滑
市出身の滝田浩平さんが、実
家の焼き物土管土場の閉鎖を
素材に制作した「The f
actory history
y」新しい街」(東京ビデオ
フェスティバル2006優秀
作品賞を受賞)をテキストと
して上映した。

現時点では参加者数もまだ
まだ限られており、その意義
が地元で十分浸透したとはい
えない。ただ、杉並の行政側
も趣旨をよく理解のうえ積極
的に支援する姿勢を見せてい
るほか、杉並以外の他の街か
らもつわさを聞きつけて訪ね
てくる人たちが多く、今後は
さらなる活動の広がりが期待
できそうだ。

滝田さんは何気なしに周囲
の身近な素材をビデオで撮影
し始めたという。すると、地
場産業の廃業が衰退する一
方、中部国際空港の開港で新
たな活力が生まれようとして
いる常滑の今を極めて如実に
描く作品に仕上がっていつ
た。こうしたプロセスも紹介
し、約40人の参加者の間で活
発なやりとりが展開された。

「杉並住民ディレクター」
の代表・高橋明子さんは「初
めから「番組作り」だけが自
らで番組作りを通して再認
識し、みんなで語り合いなが
ら地域の外に向けてのPR策
や解決策を講じていくこと
こそ、この活動の主眼がある
というわけだ。

「杉並住民ディレクター」
の代表・高橋明子さんは「初
めから「番組作り」だけが自

(ライター 岩本太郎)
木曜日に掲載

さんためだよ
エンターテインメント&メディア